



カケハシ・プロジェクト 対面学生会議 フォローアップ事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

日本に滞在するカケハシ・プロジェクト過去参加者（米国・カナダ・日本）が2日間にわたり、サステイナブル社会実現に向けた企業の取り組みや持続可能なエネルギー開発について学び、ワークショップでの議論を通じて、参加者同士の相互理解を深め、カケハシ同窓生としての意識を向上させることを目的としたプログラムを実施しました。

【参加者】2015年～2023年度カケハシ・プロジェクト参加者 計13名
（内訳）米国6名、カナダ3名、日本4名の大学生・大学院生・社会人

【訪問地】東京都

【日程】

- | | |
|-------------|--|
| 11月30日（土曜日） | 【オリエンテーション】
【アイスブレイク】
【講義】「カーボン・ニュートラルを達成するための戦略と課題」
講師：ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院（SAIS）
元客員研究員 綿引 史敏 氏
【質疑応答】
【意見交換】
【視察】株式会社 リーフ ファクトリー トーキョー
【簡易ワークショップ】 |
| 12月1日（日曜日） | 【視察】水素情報館 東京スイソミル
【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
【懇親会】 |

2. 記録写真



2024 年 11 月 30 日【オリエンテーション】



2024 年 11 月 30 日【アイスブレイク】



2024 年 11 月 30 日【講義】「カーボン・ニュートラルを達成するための戦略と課題」



2024 年 11 月 30 日【講義】集合写真



2024 年 11 月 30 日【視察】
株式会社 リーフ ファクトリー トーキョー



2024 年 11 月 30 日【視察】株式会社 リーフ ファクトリー トーキョー レタスの試食



2024 年 12 月 1 日【視察】
水素情報館 東京スイソミル



2024 年 12 月 1 日【視察】
水素情報館 東京スイソミル 集合写真

	
2024 年 12 月 1 日【報告会】	2024 年 12 月 1 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 米国 社会人

視察などそれぞれ異なるプログラムがありながらも共通のテーマに沿っており、大変有意義でした。出会ったすべての人が親切で、このプログラムを企画した関係者に感謝を表したいと思います。

◆ 米国 社会人

日本がどのようにエネルギー効率を高め、他国に依存しない体制をつくっていくのかについて楽しく学ぶことができました。米国も SDGs の達成にむけて、日本と同じ取り組みを実施し、よりよい地球と未来に向けて備える事ができるようになると願っています。

◆ 米国 社会人

興味深い講義と視察先にご案内いただきありがとうございました！おかげで、日本のエネルギー事情についてより深く知ることができました。このプログラムで得た見識を、今後の研究プロジェクトや仕事などに活かす事ができると感じています。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

講義を通じて、参加者がエネルギー全般に関心が高いこと、講義を通じて感じたことが日本や世界のエネルギー問題の解決のヒントとなることを実感しました。エネルギーは国際関係に直結するトピックのため、各国の若い参加者が将来を変えてくれる可能性を感じました。

◆ 視察先関係者

プレゼンテーションを非常に興味深く聞いていただき、質疑応答でも多くの質問をしていただき、活発な議論ができたと思います。また、弊社のレタスの試食も楽しんでいただき、スタッフにとっても充実した時間になりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2024 年 11 月 30 日（Instagram） 米国 社会人 カケハシ・プロジェクトで持続可能性、アグリツーリズム、グリーンシティについて話しました。	2024 年 12 月 1 日（Instagram） 米国 社会人 これから東京にある水素博物館（東京スイソミル）へ向かいます！

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都 全 3 グループ発表

グループ A		
Group A Kakehashi Study Program Nov 30 - Dec 1	What we learned. • Lecturer: Mr. Fumikoshi Watahiki ◦ Japan's current energy mix. → Mostly imported fossil fuels. ◦ Pros and cons of different energy sources. ◦ How to achieve the goal of the Paris agreement? ◦ What to do with electric electricity? • Leaf Factory Tokyo ◦ Stable price ◦ High yield ◦ No need to clean ◦ High cost of energy • Tokyo Hydrogen Museum ◦ "Green" hydrogen generation as use for excess energy generated from renewables ◦ Using residential fuel cells like "Enefarm" results in less energy loss than when transmitted via the grid.	How to achieve a sustainable society in Japan • Japan's problematic energy mix: ◦ Diversity energy sources ◦ Education on nuclear energy ◦ Subsidies ■ Development of "green" hydrogen infrastructure/FCEV's ■ Home batteries/BEV's • Japan's shortage of farmers: ◦ Encourage the youth: Education, support, and farm succession ◦ Smart Technology: Robotics, smart farming & vertical farming (i.e. Leaf Factory Tokyo) ◦ Sustainability: Organic and pesticide farming ◦ Boost local food: Strengthen local production • Japan's excess renewable energy: ◦ Hydrogen generation ◦ Transmission to residential fuel cells ◦ Use in transportation: Buses, Cars
【成果の発表】 テーマ（サステイナブル社会）についての学び： 講義を通して日本のエネルギー事情、特に海外からの輸入に頼っている事実、そして再生可能エネルギーの限界と可能性について学びました。リーフファクトリーの視察では人工光を使った農業の利点と課題について学び、スイソミルでは有害な排出を伴わない「グリーン」水素について学びました。 【アクション・プラン】 グループメンバーがそれぞれアクション・プランを実施予定です。 ・ 将来、都市部で暮らす場合は公共交通機関を利用し、電力供給減に貢献します。地方に住む場合はソーラーパネルの設置や自家発電を視野に入れ、電気自動車や水素エネルギーを使った生活を模索します。 ・ 海外でアグリツーリズムに関わった経験を活かし、地方の環境保全に貢献しながらアグリツーリズムを推進していきます。こうすることで地域活性化に貢献し、SDGs の達成の一環にもなります。 ・ 勤めている小学校の生徒対象に「1 日農家体験」イベントを行い、農家さんと共に農作物を販売したり、生徒の好奇心を刺激するだけでなく、地域にも貢献していきます。		

- ・自分の生活改善をしていきます。フードロスを減らし、エネルギーを含む政策の決定権のある政治家に投票し、竹箸などのサステナブルグッズを使うようにします。
- ・若年層が農業に興味を持つような活動に参加します。そこで太陽光発電と農業を組み合わせるといった、最新技術を用いた農業についても興味をもってもらうよう促します。

グループ B



【成果の発表】

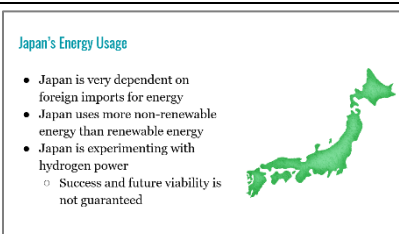
テーマ（サステナブル社会）についての学び：

サステナブル社会の実現にはエネルギー問題も含め、いろんなコストが発生します。安価なエネルギーは環境を脅かし、安全性の高いエネルギーは供給が不安定です。農業も同様に多くの状況を鑑みながら取り組む必要があります。全て、バランスを見ながら確実に、そして着実に前進していく必要があると知ることができました。

【アクション・プラン】

各メンバーが今回のプログラムを通して学んだことを友人や同僚に口頭や SNS で共有し、ローカル企業や 3R（リデュース・リユース・リサイクル）キャンペーンに貢献していきます。

グループ C



【成果の発表】

テーマ（サステナブル社会）についての学び：

日本の電力は海外に依存しており、再生可能エネルギーの使用割合が低いと知りました。水素エネルギーの推進を図りながらも、道のりは長いようです。しかし同時に技術発展や農業の効率化などといったプロジェクトも進んでおり、いかにいろんな分野の専門家が協力しあうかが重要だと感じました。

【アクション・プラン】

すぐに実施できるアクション・プランとしては、今回の経験を SNS などアップし、また、近日中に実施される水素フェスタに参加してより知識を深めます。中長期的な計画としては、今回の学びを学業や仕事に活かしていきます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）